

## ■ 支部 だ よ り ■

### 九州支部のうごき

7月6日(金)、第28回全国環境研協議会九州支部総会が鹿児島県環境保健センター(伊東祐治所長)のお世話で鹿児島市の鹿児島東急インで開催された。この会議の内容を中心に九州支部での最近の動きを紹介する。

総会の出席者は11機関31名で、支部長宮崎県衛生環境研究所川畑紀彦所長の挨拶の後、支部長表彰を行い、次いで地元の伊東所長を議長として参加者の自己紹介を経て議事に入り、活発な討議がなされた。総会中に地方衛生研究所九州支部と合同で意見交換を実施し共通する問題について意思疎通を図ることができた。

#### 1 報告事項(支部長)

- (1) 平成12年度事業および決算報告ならびに平成13年度事業および予算(案)について
- (2) 最近の全環研の動向について
  - ①国への施策および予算に関する要望について
  - ②全環研各部会の動きについて
  - ③各種役員等人事について報告がなされた。その中で、九州地区で近々に開催される全国規模の会議等として、9月12日の平成13年度全環研騒音振動担当者会議(福岡県)、10月6日の平成13年度全環研合同集会(大気汚染学会併設、北九州市)が紹介された。

#### 2 支部機関提出議題

①県公設試の統合について(長崎県)②地方研究所の自主性について(長崎県)③地方研究所の独立行政法人化について(福岡市)④イボニシを用いた生物モニタリング調査の共同研究について(大分県)⑤その他(機器整備の方策、ISO14001取得、ダイオキシン測定体制や管理規定)に関してなどが議題として提出された。

以上いずれもわれわれの組織を取り巻く今日的な議題であった。そして現実に以上の問題が目下の課題として取りざたされている組織からの提案であった。これらの業務環境の変化を見きわめ、将来の方向性を探ろうとする課題であり、問題に対しての各組織の苦悩が窺えた。以上の問題への対応の現状として支部内でも共通した地盤は形成

されていないのが実情であり、それだけに各機関自身が抱える責任の大きさを思わされた。

また支部内での共同研究のあり方について各種の意見が提出されたが、行政サイドと地環研側の意思統一という古くて新しい問題を通じて自治体内試験研究機関であるわれわれの立場について改めて考えさせられた。

#### 3 支部長表彰

試験研究業務の推進に多年にわたって功績のあった次の3名の方が表彰された。

福岡県保健環境研究所	永淵 義孝
長崎県衛生公害研究所	釜谷 剛
熊本県保健環境科学研究所	上野 一憲

#### 4 その他

- (1) 全環研の名称の変更に伴って支部会則などの変更の承認。
- (2) 国立試験研究機関の九州衛生環境技術協議会への参加形態に関しての合意。
- (3) 次回総会開催は沖縄県が担当すること、ならびに総会の開催形態に関しては検討を継続していくことの承認。
- (4) 平成14年度の第29回環境保全・公害防止研究発表会は宮崎県が担当。

総会とは別行事として、第27回九州衛生環境技術協議会が平成13年10月11日～12日に福岡市アークホテル博多ロイヤル、福岡市健康づくりセンター「あいふる」を会場に、福岡市保健環境研究所(太田耿三所長)のお世話の元で開催された。本協議会は九州地区のすべての地方衛生研究所、地方環境研究所がすべての分野(大気、水質、生物、衛生化学、細菌、ウイルス、情報処理の7分科会)で一同に会して研究成果の披露と情報交換を行うものであり、毎年会員の持ち回り主催で開催されている。このような大規模な協議会を息永く実施できていることは九州支部として胸が張れると自負しており、今回も盛大に挙行され懇親会を含めて大いにその実を上げることができた。次回は宮崎県が担当することになった。